

NIVO+mFOLFOX6療法

FN 低:催吐性 中
診断名:胃癌

○投与スケジュール (1コース 14日)

Day1(点滴): オプジーボ (ニボルマブ) div 240mg/body
Day1(点滴): オキサリプラチン(L-OHP) div 85 mg/m²
Day1(点滴): レボホリナート(I-LV) div 200 mg/m²
Day1(点滴): フルオロウラシル div 400 mg/m²
Day1~2(持続静注) フルオウラシル continuous civ 2400 mg/m²(全体量)

Day2~Day3 デカロン 8mg 分2朝・昼の内服を投与する。

○注意事項

★オキサリプラチン注:アレルギー発現注意!! 累積投与量が 401mg/m² 以上 or 半年以上休薬あり再投与する場合は重篤なアレルギー反応を惹起する可能性あり。再投与の意義がリスクを上回ると考えられる場合は、前投薬の強化などを考慮する。

<強化例> 前投薬①にファモチジン注 20mg + ポララミン注 5mg を追加

1. Infusion reaction. 主に初回投与時の投与中又は投与開始後 24 時間以内に出現。発熱、悪心、掻痒感、発疹、呼吸困難等。
2. 有害事象 (国内第Ⅱ相試験)
主な副作用: 倦怠感 14.5%、発熱 14.5%、食欲減退 14.5%、発疹 14.5%、疲労 11.8%、悪心 10.5%
重大な副作用: 間質性肺疾患、重症筋無力症、筋炎、大腸炎、重度の下痢、1型糖尿病、肝機能障害、肝炎、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion Reaction。
3. 本剤のT細胞活性化作用により、過度の免疫反応に起因すると考えられる様々な疾患や病態があらわれることがあるため、甲状腺機能 (TSH、遊離 T3、遊離 T4 等)、血糖値等定期的な検査を実施すること。
4. 過度の免疫反応による副作用が疑われる場合には、副腎皮質ホルモン剤の投与等を考慮すること。